

海外派兵を続けるのか
憲法9条を無視して

政府が自衛隊の「日報」を公表 南スーダンでの戦闘の様子を生々しく伝える

安倍内閣は、南スーダンに派遣した陸上自衛隊の部隊が昨年7月の戦闘を記録した日報を公表しました。当初、情報公開を拒否した防衛省も、国会や世論に押され公開しました。

戦闘状態なのに事実を隠す

自衛隊の日報は、「激しい戦闘」といった表現で情勢悪化の深刻さを報告しています(右欄)が、安倍政権は「散発的な発砲」といつわり続けました。安保法制=戦争法に基づく「駆け付け警護」の任務を付与するため、不都合な情報を隠した疑惑があります。

「9条上問題になる言葉は使わない」

国会で稲田防衛相は、日報の「戦闘」という表現は「法的な意味の戦闘行為ではない」「憲法9条上問題になる言葉は使うべきではない」と答弁しました。憲法9条をないがしろにする行為にほかなりません。

PKO(国連平和維持活動)法は、紛争当事者間の停戦合意など「参加5原則」を定めています。銃撃戦が続く南スーダンへの派兵がPKO5原則を踏まえていないことは明らかです。南スーダンへの派兵は撤退すべきです。

自衛隊「日報」より

- ◆大統領派(政府軍)と前副大統領派の戦闘について、「戦車射撃含む激しい銃撃戦」
- ◆「戦車や迫撃砲を使用した激しい戦闘」
- ◆「日本隊宿営地西側において、政府軍戦車1両を含む銃撃戦が起こり、日没まで戦闘継続」

新名神高速道路 関連工事

幅25メートルの道路に



山手幹線につながる府道八幡インター線

府道インター線などを現場調査 大気や騒音、環境対策を

新名神高速道路・八幡城陽間の開通に向け、美濃山地区内で料金所につながる府道八幡インター線の工事が進んでいます。

内里から山手幹線につながる府道八幡インター線は、新名神の延伸完成時には幅25メートルの巨大道路になります。隣接地では、住宅地のすぐ裏側に新名神(幅約40メートル)とインター線が並走することとなり、大気や騒音などの環境対策が不可欠です。

さらに地区内では、新名神の高槻延伸にともない建材にアスベストを含む倉庫の撤去が予定されており、アスベスト飛散防止などの環境対策が求められています。